

臨時農業生産情報

(高温に対する技術対策)

平成22年8月27日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

仙台管区气象台が8月24日に発表した「高温に関する異常天候早期警戒情報(東北地方)」によると、8月29日頃からの10日間程度、気温が平年よりかなり高くなる見込みとなっています。

このため、次の事項に留意し、農作物の栽培管理に万全を期してください。

1 水 稲

- (1) 刈取適期の目安となる出穂後積算気温960度に到達する日が、県内各地で平年に比べて概ね10日~14日程度早まると予想されるので、以下の点に注意し、高品質・良食味米生産に努める。
 - ア 刈遅れて、胴割粒や茶米の発生による品質低下を招かないよう、出穂後積算気温を目安に、籾の登熟程度を見極めて、適期刈取りを行うこと。
 - イ コンバインや乾燥・調製施設の清掃・点検や試運転など、収穫の準備作業を早め実施すること。

2 野菜・花き

- (1) 軟腐病やハダニなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。また、野菜で軟腐病等が発病した株については早めに抜き取るなどして処分する。
- (2) 生理障害が見られる場合は、必要に応じて葉面散布を行う。
- (3) 果菜類では、草勢を保つため追肥を行うほか、不良果、被害果を早めに取り除く。
- (4) 施設栽培では、換気や寒冷紗被覆など温度管理の徹底を図るほか、かん水は土壌水分に留意し、地温低下のため少量・多回数にする。
- (5) 花きで短日処理を行っている場合は、被覆資材の夜間解放を行い、内部が高温にならないよう管理する。

3 りんご等果樹

- (1) 果実等の日焼け防止のため、各樹種とも摘葉は最小限に控え、過度な徒長枝の整理を避ける。
- (2) 日焼けによる障害果や肥大の劣る果実は、見直し摘果を徹底して、果実品質の向上を図る。
- (3) 早生種では、着色の進みが遅れる場合があるので、果肉の熟度などに合わせて適期収穫に努め、収穫した果実は速やかに冷蔵施設に搬入する。

4 畜 産

- (1) 畜舎の防暑対策
 - ア 西日や隣接する建物からの反射熱の侵入を防止するため、日除けを設けたり畜舎の屋根や畜舎内に散水・放水する等により舎内温度を下げる。
 - イ 窓を開放したり換気扇・送風機などを利用して、舎内の換気を良くする。

(2) 家畜の飼養管理

ア 朝、夕の涼しい時に飼料を給与する。また、給与回数を増やし乾物摂取量を高める。

イ 過密飼育を避け、ストレスの軽減を図る。

ウ 新鮮な冷水を常に飲めるようにする。

エ 特に、乳用牛では乳量や乳成分が下がる傾向にあるので、栄養価が高く、嗜好性の良い一番牧草などを給与するとともに、ビタミンやミネラル等も不足しないよう補給する。また、種雄豚は造精機能が低下するので、交配は涼しい時を選び、供用は週2回程度とする。

(3) 放牧牛の管理

ア 放牧は、木陰のある牧区を使うか、できるだけ涼しい時間帯に行く。

イ 新鮮な冷水を常に飲めるようにするとともに、栄養価が高く、嗜好性が良い飼料やミネラルを与える。

ウ 行動をよく観察し、異常牛の早期発見・早期治療に努める。

5 農作業（熱中症の予防）

(1) 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめに取る。

(2) 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する。



| 報道機関用提供資料 | |
|------------|--|
| 担当課 担当者 | 農産園芸課 稲作振興グループ 舘山主幹 野菜・畑作物振興グループ 原主幹 りんご果樹課 生産振興グループ 小笠原主査 畜産課 経営支援グループ 梶田技師 |
| 電話番号 | 直通 017-734-9481 内線 3460 |
| 報道監 | 農林水産部 小山内農商工連携推進監（次長） 内線 3181 |

【おしらせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンや携帯電話にメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「アップルネット」からお申し込み下さい。